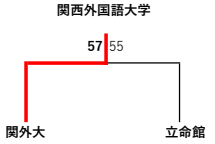
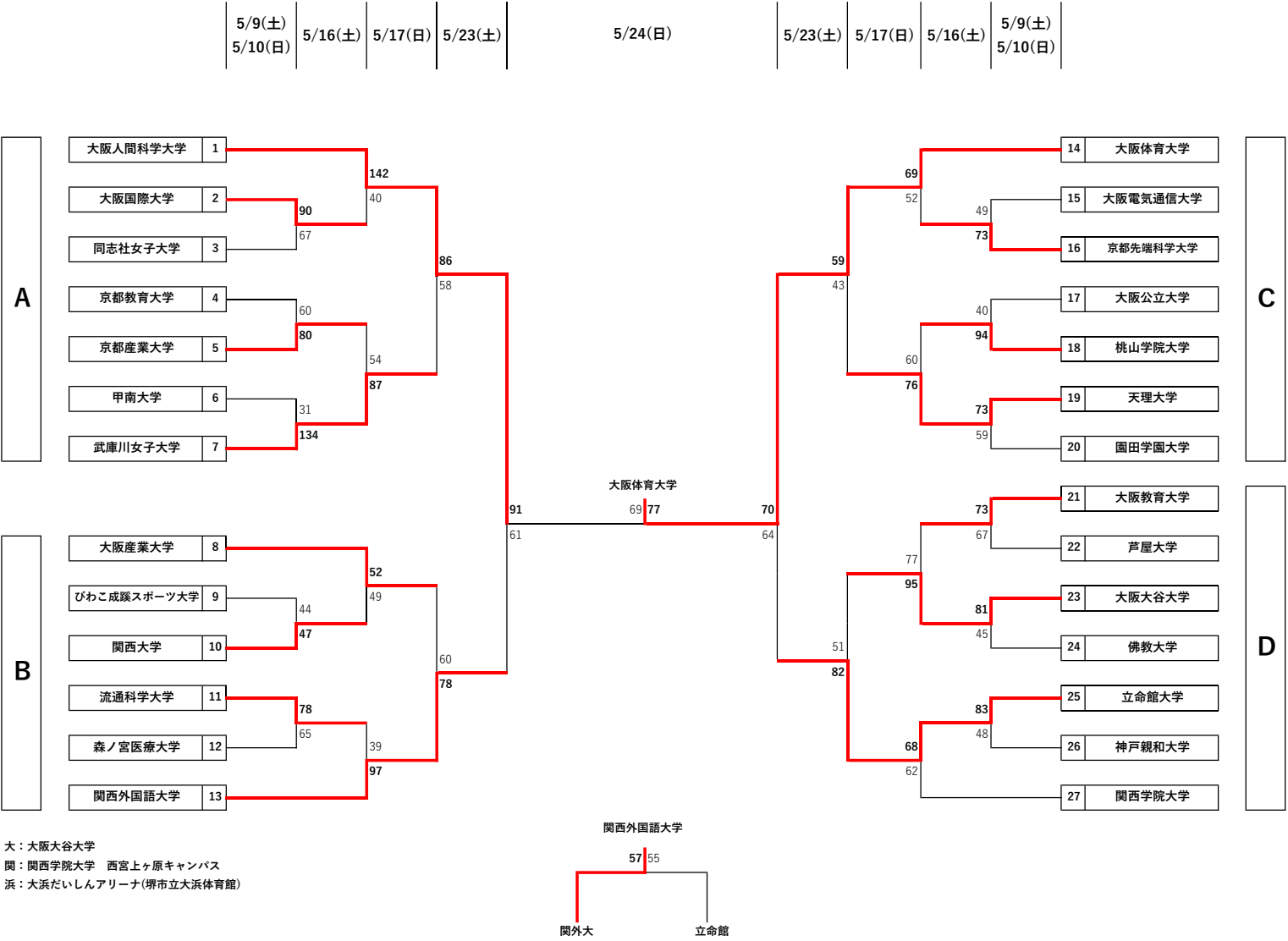


【5月24日更新】

第4回全関西大学女子バスケットボール新人戦 組合せ



【総務部】

1, 課題点、改善策

- 1) 試合時にチーム ID をつけていないスタッフの方が多くいた。
→通常は選手としてエントリーしている3, 4回生がチームスタッフとしてベンチエントリーしているチームが多いため、代表者会議、試合エントリー時等での事前周知を徹底する。また、フロア入場時のチェックを強化する。
- 2) ミズノ株式会社さんへの、副賞依頼が遅かった。
→大会が続く時期であるが、最低でも1カ月前までの依頼を徹底する。また、なるべくご負担にならないように、依頼をまとめるなどタイミングを検討する。

2, 報告事項

- 1) 追加加盟の手順を昨年度から変更し、チームとデータのやり取りで行ったが、特に問題なく進めることができた。

3, 検討事項

- 1) 表彰式時の、学連員の服装(スーツの着方)や立ち振る舞いなどについて、表彰式らしい身なりができていないか確認する。

【広報渉外部】

1, 課題点、改善策

- 1) パンフレットについて
 - ①入稿に遅れがあったことから、理事校正の期間が短く、校了のスケジュールが遅れてしまった。
→納品は予定通り行うことができたが、各部署と早い段階から連携を取り入稿の遅れを防ぐ。
 - ②学生校正の見落としがあった。
→広報渉外部が責任を持って校正を行う。
→より多くの学生で様々な視点から確認を行うよう分担し、見落としを防ぐ。

2, 報告事項

- 1) 大浜だいしんアリーナにて、バスケットボールのコートサイド看板がYouTube 配信に映らなかった為、位置を変更し実施した。

【財務部】

1, 課題点、改善策

- 1) Web パンプの発送が遅れてしまった
→学生が必要なものを自宅に持ち帰り、なるべく早めに発送できるようにする。

2. 報告事項

1) 【チーム参加費】

参加費：参加費@25,000×28 チーム

合計：700,000 円(+50,000 円)

2) 【パンフレット】600 部発注

・チーム販売：@400×278 冊(+7 冊)

合計：111,200 円(+2800 円)

・一般販売：@500×69 冊(-18 冊)

合計：34,500 円(-9000 円)

・WEB 販売：@600×10 冊(-5 冊)

合計：5,400 円(-3600 円)

パンフレット売上合計：冊数 356 冊(-17 冊) 金額 151,100 円(-9800 円)

3) 【勝ち上がり金】

勝ち上がり金：@2,000×19 試合

合計：38,000 円(+2000 円)

収入合計 889,100 円(+42,200 円)

【競技部】

1. 課題点、改善策

- 1) 審判部との連携が不十分だったため、訂正前のタイムスケジュールが審判員へ配信されてしまった。

→原因：競技部がタイムスケジュールを審判部へ共有した後、競技部側でデータを変更したことを審判部へ伝達できていなかった。

→改善策：競技部・審判部の共有グループの積極的活用する。

部署トップ同士の情報共有を確実に行う。

→リーグ戦以降の競技部・審判部の共有体制

① 競技部：タイムスケジュール作成

・HP 掲載連絡と同時に、競技部・審判部のグループへ共有

※ファイル名およびタイムスケジュール内に更新日を必ず明記

② 審判部：審判割り当てを作成

・競技部が共有した最新版を参照

③ 審判部：審判員へのリマインド配信前の確認

・毎週水曜日のリマインド配信前に、競技部への確認を実施

- ④ 競技部：確認体制
- ・会場/試合時間の確認者
 - ・勝ち上がりによる対戦校記載の確認者

2. 報告事項

- 1) 今年度も OTC と同会場で開催させて頂いた。前日準備等を実施したこと、2 年目ということもあり、スムーズな運営を行うことができた。

3. 検討事項

- 1) 3・4 年生の応援および保護者の来場を考慮し、十分な応援席を確保できる大学体育館を優先して会場の都合同いを行う。

【審判部】

1. 課題点、改善策

- 1) 競技との連携が取れておらずタイムスケジュールを間違っ審判員に配信してしまい誤った時間に審判員が到着されていた。
→競技部・審判部の共有グループを積極的に活用するとともに、部署トップ集合での情報共有を徹底し、情報漏れを防ぐことで部署間の連携を強化する。さらに、審判部においてもリマインド配信前に、タイムスケジュールや会場に変更がないか競技部へ確認したうえで配信することを徹底する。

第4回全日本大学バスケットボール新人戦

女子グループステージ

★Aブロック

	白鷗大	鹿屋体育大	東北学院大	勝	負	勝ち点	順位
白鷗大		○ 119-43	○ 133-60	2	0	4	1
鹿屋体育大	● 43-119		○ 89-88	1	1	3	2
東北学院大	● 60-133	● 88-89		0	2	2	3

★Bブロック

	専修大	名古屋経済大	大阪体育大	勝	負	勝ち点	順位
専修大		○ 80-74	● 75-82	1	1	3	2
名古屋経済大	● 74-80		● 59-81	0	2	2	3
大阪体育大	○ 82-75	○ 81-59		2	0	4	1

★Cブロック

	山梨学院大	聖カタリナ大	日本経済大	勝	負	勝ち点	順位
山梨学院大		○ 158-31	● 58-61	1	1	3	2
聖カタリナ大	● 31-158		● 40-146	0	2	2	3
日本経済大	○ 61-58	○ 146-40		2	0	4	1

★Dブロック

	広島都市学園大	星槎道都大	愛知学泉大	勝	負	勝ち点	順位
広島都市学園大		○ 70-69	● 39-81	1	1	3	2
星槎道都大	● 69-70		● 61-88	0	2	2	3
愛知学泉大	○ 81-39	○ 88-61		2	0	4	1

★Eブロック

	東京医療保健大	松山大	新潟青陵大	勝	負	勝ち点	順位
東京医療保健大		○ 195-44	○ 98-48	2	0	4	1
松山大	● 44-195		● 58-116	0	2	2	3
新潟青陵大	● 48-98	○ 116-58		1	1	3	2

★Fブロック

	大阪人間科学大	北翔大	拓殖大	勝	負	勝ち点	順位
大阪人間科学大		○ 98-73	● 83-104	1	1	3	2
北翔大	● 73-98		● 61-91	0	2	2	3
拓殖大	○ 104-83	○ 91-61		2	0	4	1

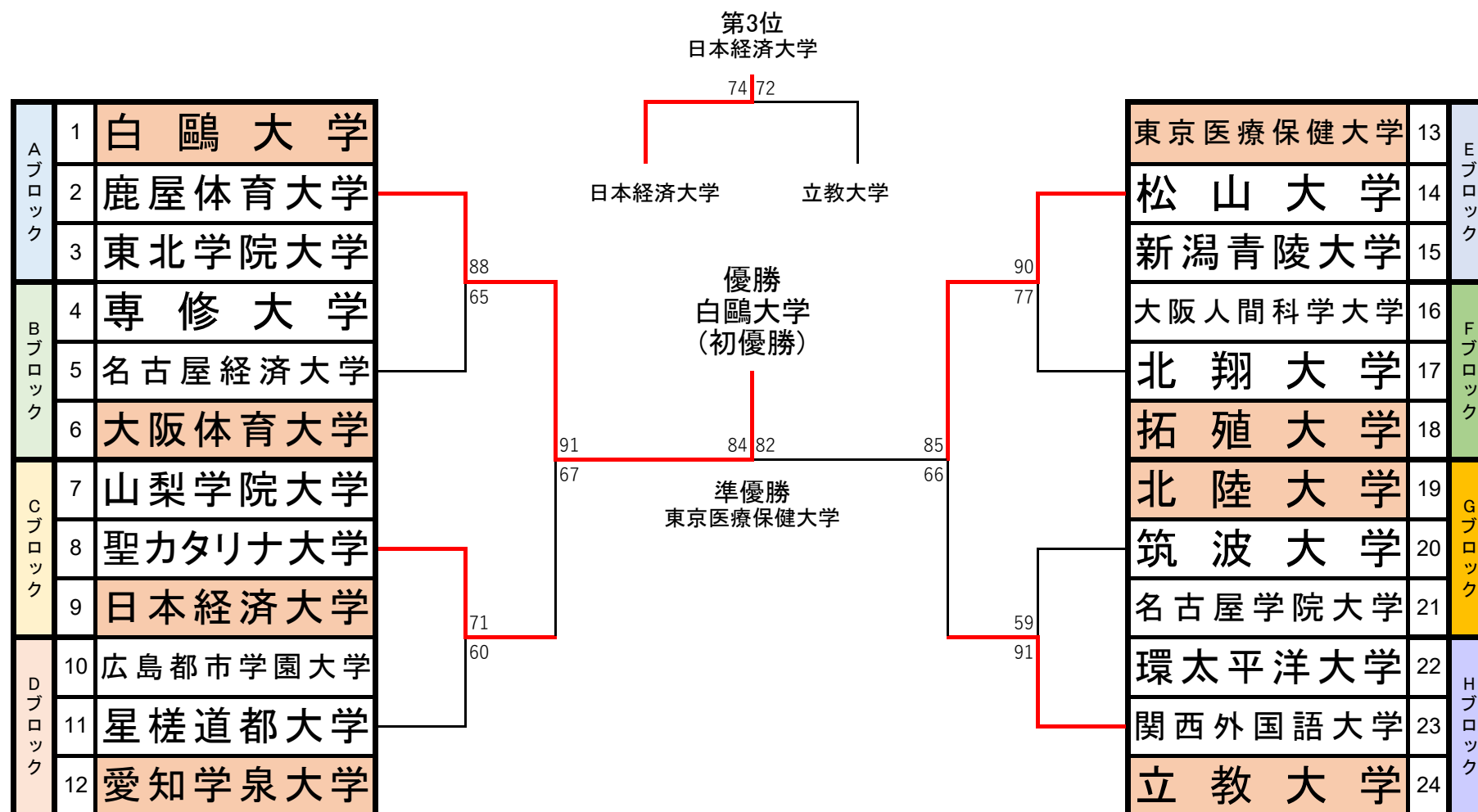
★Gブロック

	北陸大	筑波大	名古屋学院大	勝	負	勝ち点	順位
北陸大		○ 72-65	○ 88-62	2	0	4	1
筑波大	● 65-72		○ 106-47	1	1	3	2
名古屋学院大	● 62-88	● 47-106		0	2	2	3

★Hブロック

	環太平洋大	関西外国語大	立教大	勝	負	勝ち点	順位
環太平洋大		○ 68-48	● 49-71	1	1	3	2
関西外国語大	● 48-68		● 65-72	0	2	2	3
立教大	○ 71-49	○ 72-65		2	0	4	1

第4回全日本大学バスケットボール新人戦 女子トーナメント表



WOMEN

ALL JAPAN INTERCOLLEGIATE
ROOKIES TOURNAMENT 2026

2026 年 7 月 17 日

第 4 回全日本大学バスケットボール新人戦（愛媛県松山市）

派遣レポート

大会期間：7/7(火)～7/12(日)

派遣期間：7/6(月)～7/12(日)

総務部 勝井 真奈美

競技部 宮崎 優愛

1. 報告事項

・日学と四国学連のコミュニケーション不足により、貼り紙が前日準備になり、簡易的なものになってしまっていた。

・表彰物、表彰式準備等はすべて日学側で行う。

・体育館確保について

日学から 2028 年度新人インカレ競技日程が関西学連に共有された後、関西学連が 2028 年度新人インカレ開催 1 年前までに会場を確保する必要がある。

・今回のパンフレット制作は企画・編集・デザインを含め、すべて日学側で作成した。制作途中で四国学連側から、「印刷のみを担当したい」との申し出があったが、制作過程を担っていない中で印刷のみを担当することは適切ではないと判断し、今回はお断りした。

→2028 年度に関西学連がパンフレット制作をすることは可能であるが、担当する場合は、企画から制作、印刷まで一連の工程に関西学連側で実施する方針とする。

・YouTube での試合配信については、放映権が関係するため、関西学連の判断のみで配信を実施することはできない。なお、2028 年度の配信方法については、日学と J スポーツとの契約更新の内容により、変更となる可能性があるため、契約内容を踏まえて対応する。

・チケットは日学側で用意する。

→2026 年度は愛媛県開催で観客数が比較的少ないと見込まれたため、前売り券の販売は行わず、当日券のみの販売とし、支払い方法も現金のみであった。

一方、2028 年度は関西開催で観客数の増加が見込まれることから、前売り券の販売を実施するとともに、キャッシュレス決済を導入することが望ましい。なお、キャッシュレス決

済端末は日学が関西学連へ貸し出し、売上金については後日、日学から関西学連へ振り込む運用を想定しているとのこと。

- ・日学が審判割り当ての条件を提示し、予選の審判割り当ては四国学連が作成する。その後、作成後に日学が最終確認を行う。なお、決勝トーナメントを含む予選以降の試合については、日学の審判長が割り当てを作成する。

→審判への都合伺いは開催 2 ヶ月前に実施。なお 6 週間前を締切とする。

- ・審判への交通費は関西学連が全額負担する。(上限 2 万)

2. 検討事項

- ・2026 年度ではスタッツの記録を運営補助員が担当していたため、最終スコアの記録ミスなどが発生した。

→2028 年度では、記録の正確性を向上させるため、学連員がスタッツを担当する運営体制について検討する。

- ・2026 年度では、一般受付に運営補助員のみが配置されていたため、専務理事をはじめとする来賓への対応が十分に行えなかった。

→2028 年度では、一般受付に必ず学連員を配置し、来賓への適切な対応ができるよう検討する。

(以上)

2026 年 7 月 17 日

第 4 回全日本大学バスケットボール新人戦
派遣レポート感想

勝井・宮崎

今回の大会運営を通して、新人インカレの運営体制について多くの学びがありました。

まず、四国学連は学生数が限られており、多くの学生がチーム活動に所属していることから、運営に携わることのできる人数が少ない状況でした。

今回の大会では、四国学連学生 15 名、日学学生 9 名、そして四国地区の大学から派遣された約 60 名の運営補助員を含め、1 週間合計約 100 名で大会運営が行われていました。

大会全体の指揮は日学学生が中心となって行っており、四国学連学生と運営補助員の業務内容には大きな違いはありませんでした。エントリーやスタッツ、受付など、関西では通常学連学生が担当している業務についても、運営補助員が担当していました。

また、業務マニュアルはなく、日学学生から口頭で説明を受けながら業務を進める形となっていました。そのため、経験や理解度によって業務の進め方に差が出る場面もありました。

その中で、特に良いと感じた点は、インカムを活用した情報共有の仕組みです。

日学学生と運営補助員がインカムを使用することで、離れた場所においても迅速に連絡を取り合うことができ、観客対応や選手誘導などトラブルがあっても柔軟に対応できていました。大会運営では、常に全体の状況を把握しながら動くことの大切さを学びました。

一方で、改善できる点もありました。

日学学生は、部署ごとの役割分担が明確である反面、自分の担当以外の業務内容を把握する機会が少ないように感じました。

関西学連では、全員が複数の部署に対応できるような体制を整えているため、急な担当変更やトラブルが発生した際にも柔軟に対応することができると思います。

また、2 会場開催時の女子会場では、日学学生が 4 名という少人数で運営を行っていたため、細かな部分まで確認することが難しい状況もありました。

特に受付業務を運営補助員が担当していたことで、ゲストや報道関係者への対応が十分に行き届かない場面がありました。また、TO やスタッツ業務についても運営補助員が担当していたため、情報共有の不足から、試合終了後に最終スコアの修正が発生するなどの課題も見られま

した。

また、日学の3本部長の方々が1週間会場の本部に常駐し、大会スケジュールの確認や進行状況の把握を行いながら、必要に応じて学生への声掛けやサポートをされていました。そのような支援があったことで、大会全体が円滑に進行していたと感じました。

今回の経験を通して、限られた人数で大会を運営するためには、単に役割分担を行うだけではなく、情報共有の仕組みや、全員が幅広い業務を理解できる体制づくりが重要であると学びました。

今後、関西学連で大会運営を行う際には、今回学んだインカムを活用した迅速な情報共有など、取り入れられる部分は積極的に参考にしながら、より効率的で質の高い運営につなげていきたいと考えています。

以上です。